

## 論文内容の要旨

報告番号		氏名	田村 大和
Effect of Cardiac Expansion on Postsurgical Pulmonary Resection Recovery (心拡張機能が肺切除後周術期回復に与える影響)			

### 論文内容の要旨

【目的】肺切除を行う際、肺機能や運動耐容能が維持されている場合でも周術期合併症や術後回復の遷延を認める症例がある。今回、心収縮機能、運動耐容能が保持されている症例において、心拡張機能障害が肺切除後の回復に与える影響について検討を行った。【対象】2015年2月から2017年10月の間に行った肺腫瘍性病変に対する手術症例186例において、階段昇降試験で1階から6階まで(22.2m)昇降可能であった症例162症例のうち、肺癌治療のため肺葉切除または肺区域切除を行った90例を対象とした。【方法】心拡張機能の指標として術前にエコーで評価を行った。拡張機能障害は $E/e' \leq 8$ を正常(Grade I)、 $8 < E/e' \leq 12$ を中等度(Grade II)、 $12 < E/e'$ を高度(Grade III)に定義した。End-pointは合併症出現、酸素投与日数、ICU在院日数、術後在院日数とした。【結果】術後合併症は3群間で有意差は認めなかった。正常な左室拡張機能症例(Grade I)に比べ、中等度の左室拡張機能障害症例(Grade II)では酸素投与期間に有意な差を認めなかったが、高度左室拡張機能障害症例(Grade III)においては有意に長くなった。さらに、ICU在室日数、術後入院日数に関しても左室拡張機能障害による影響は同様の結果であった。【結論】左室収縮機能が正常で運動耐容能が保たれた症例に解剖学的肺切除を行った場合、左室拡張機能障害は術後回復に負の影響を与えた。